

様式第1（第15条関係）

会 議 録

会議の名称	平成30年度第1回 和泉市地域福祉推進協議会
開催日時	平成30年6月1日（金曜日）午後2時から午後4時
開催場所	和泉市コミュニティセンター 4階中集会室
出席者 （敬称略）	<p>【委員】</p> <p>桃山学院大学 名誉教授 石田 易司 和泉市民生委員児童委員協議会 会長 一井 正好 和泉市障がい者団体連絡協議会 会長 長井 秀夫 和泉市医師会 副会長 奥村 聡彦 大阪府和泉保健所 次長 小川 ひろみ （所長 森脇 俊 代理） 市民公募委員 中 美智子</p>
議案等	<p>「地域福祉計画の進行管理について」</p> <p>「地域福祉活動計画の進行管理について」</p>
会議録の 作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の 確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> その他（事務局にて確認）
審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	

<p>石田会長</p>	<p>【開会挨拶】</p> <p>【委員の交代について】</p> <p>【委嘱状交付】</p> <p>【出席者紹介】</p> <p>【会長選出】</p> <p>お手元の次第にありますように、議題が三つ。 1. 地域福祉計画の進行管理について。 先程の挨拶にもありましたけど現在動いている物の進行管理 2. 地域福祉活動計画の進行管理について。 続いて、第4次和泉市地域福祉計画及び地域福祉活動計画を作るのにどうしたらいいかということをご議論いただければと思っています。</p> <p>では、最初に地域福祉計画の進行管理について、市からの報告。 続いて地域福祉活動計画の進行管理について社協からご報告いただければと思います。 事務局よろしくお祈いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局 井上でございます。</p> <p>私からは、和泉市が策定しました、青色冊子 第3次和泉市地域福祉計画と、 【資料1】第3次和泉市地域福祉計画基本目標診断シートをご覧いただきながら、平成29年度の主な取組を中心に、抜粋のうえ、ご説明をさせていただきます。</p> <p>青色冊子 計画書38ページ、39ページをご覧ください。 このページには、本計画の施策の体系を掲載しており、地域福祉計画の基本理念として「ささえあう みんながつくる 地域の和（輪）」を掲げ、4つの「基本目標」と11の「施策の方向」に分類のうえ、具体的な取組を記載しております。</p> <p>今からの説明につきましては、青色冊子61ページから73ページまでの和泉市における地域福祉関連事業の具体的な取組、及び冊子には記載していませんが、新規の事業を含め、重点取り組み（H29）を中心に、事業の一</p>

部を抜粋してご説明させていただきます。

再度、青色冊子38ページをご覧ください。基本目標1「支援が必要な人を支える地域づくり」に係る事業として、今回ご説明させていただくものは2項目でございます。

①冊子に記載はありませんが「介護予防・日常生活支援総合事業」

②「地域包括支援センター事業」の2項目についてご説明させていただきます。

それでは、【資料1】4ページ 下段 事業名「介護予防・日常生活支援総合事業」をご覧ください。

本事業は、市が中心となって、市域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し多様なサービスを充実することで、地域の支えあい体制づくりを推進し、対象者を効果的かつ効率的に支援するものでございます。

事業の取組状況としまして、平成29年度からの新規事業であります住民ボランティアによる高齢者の困りごとを手助けするサービス「おたがいさまサポーター事業」については、おたがいさまサポーター登録者数160人、研修修了者数115人、サポーター活動数15人、サービス利用者数12人となっております。

おたがいさまサポーターが徐々に根付いてきており、既存のボランティア層だけでなく、新規の層（学生、子育て世代、企業）もサポーター事業に参加していただいております。

次に、資料6ページ 下段 事業名「地域包括支援センター事業」をご覧ください。

本事業は、生活圏域ごとに地域包括支援センターを置き、介護予防ケアマネジメント事業、総合相談支援事業、権利擁護事業及び包括的継続的マネジメント事業を実施することで、高齢者の介護予防及び総合的な福祉の向上を推進していくものです。

事業の取組状況としましては、平成29年度より各地域包括支援センターの職員を1名ずつ増員し、高齢者人口の増加に伴い、増加する相談対応や支援の強化を行いました。

また、認知症施策の推進を中心に取り組む認知症地域支援推進員を配置し、認知症施策を充実させるとともに、地域包括支援センターの後方支援を行いました。

再び青色冊子38ページをご覧ください。

基本目標2「安全・安心に暮らせる地域づくり」に係る事業として、今回ご説明させていただくものは、3項目でございます。

①公共交通対策事業

②避難行動要支援者名簿

③冊子に記載はありませんが、地域安全センターの活用の3項目についてご説明させていただきます。

資料【資料1】の8ページ 下段の「公共交通対策事業」をご覧ください。本事業は、公共交通の存続により、市民が移動する際の利便性の向上と公共交通不便地域の解消を行うものです。

事業の取組状況としましては、コミュニティバス等の運行により、公共交通不便地域における交通利便性の向上を図りました。

また、地域における新たな交通サービスとしてデマンド型交通（乗合タクシー）の実証運行を実施しました。

事業の課題及び今後の方向性として、公共交通の存続に向け、更なる利便性の向上、利用促進に向けた啓発や取組が求められており、本市にとって望ましい持続可能な公共交通ネットワークの再構築に努めてまいります。

次に資料9ページ 下段 事業名「避難行動要支援者名簿」をご覧ください。

本事業は、災害が発生し、または発生する恐れがある場合に自ら避難することが困難な方が、円滑かつ迅速な避難を確保することができるように、避難行動要支援者の台帳を作成し、地域へ提供することにより、その支援体制の整備に取り組むものです。

事業の取組状況としましては、地域の支援者（町会・自治会、民生委員・児童委員、校区社会福祉協議会、消防団等）へ避難行動要支援者のうち地域へ自身の情報を提供することに同意した方の台帳を提供し、災害時において地域の住民が協力して避難誘導や安否確認等の支援活動をスムーズに行えるよう日ごろからの見守り体制の整備をし、災害時の体制作りの充実を図っています。

事業の課題及び今後の方向性として、地域のかかわりが低下しつつあり、また地域の支援者の負担が大きく本事業への理解が得にくいということから、例えば要支援者の個別計画を作成するなど地域全体で支援できる仕組みづくりを応援していく必要があります。

次に資料10ページ 上段 事業名「地域安全センターの活用」をご覧ください。

	<p>さい。</p> <p>本事業は、小学校における地域安全センター等を拠点とし、地域の見守り隊をはじめ地域社会全体で子どもの安全を見守る体制づくりを行うとともに、情報共有や交流の場とするものです。</p> <p>事業の取組状況としましては、市内全21小学校園内に地域安全センターを設置し、子どもの安全を見守る体制を充実させています。</p> <p>また、大阪府、大阪府警本部、和泉警察署と連携し、安全安心まちづくり大規模モデルタウンを構想し、地域安全センターを拠点とした地域のコミュニティづくりに貢献しました。</p> <p>事業の今後の方向性として、自分たちの街は自分たちで守るを合言葉に見守り活動のさらなる活性化を図り、各種防犯団体と連携を深めて、特に子どもや女性が犯罪の被害に遭わないように市民の防犯意識の向上に努めていきます。</p> <p>再度、青色冊子の38ページをご覧ください。</p> <p>38ページに大体の体系を示していただいておりますが、報告に出てきた事業との関連について説明をしないと体系を示している意味が無いのでは。</p>
石田会長	
事務局	<p>そうですね。</p> <p>38ページをご覧くださいよろしいでしょうか。</p> <p>基本目標3「地域活動を支える担い手づくり」に係る事業として、今回ご説明させていただくものは、2項目でございます。</p> <p>①冊子に記載はありませんが、住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業</p> <p>②またこちらも冊子に記載はありませんが、和泉市地域福祉活動支援事業の2項目についてご説明させていただきます。</p> <p>こちらを、何故ここで取り上げているのかを説明しながら進めさせていただきます。</p> <p>資料12ページ 下段 事業名「住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業」をご覧ください。</p> <p>こちらの事業は、主として高齢者世帯等を対象に、日常生活で起こるちょっとした困りごとを地域住民が低額な対価で支援・解決する「地域住民どうしの助けあいの活動」を促進・支援していくものです。</p> <p>事業の取組状況としまして、平成28年度に選定したモデル団体の活動に要する経費の一部を補助、研修を実施するなど、団体の活動の充実を支援しま</p>

した。

またフォーラムを開催して事業の周知を図り、地域住民同士の助け合い活動が波及していくよう取組を推進しました。

事業の今後の方向性としまして、新たに地域住民同士の助け合い活動を実施する団体を募集します。

また平成30年度は事業の最終年度であるため、事業3年間の成果を事業報告書にまとめ事業終了後も地域の助け合い活動を始めようとする団体の立ち上げを側面的に支援していきます。

この事業をここで取り上げさせていただいたのは、地域の助け合い活動を支援するものとして冊子に記載はありませんが、基本目標3「地域活動を支える担い手づくり」と深く関連があるため、この目標の中で説明させていただいています。

次に資料13ページ 下段 事業名「和泉市地域福祉活動支援事業」をご覧ください。

事業としまして、地域福祉の推進を目的とする社会福祉協議会が、地域福祉の代表者（校区社会福祉協議会ボランティア代表）と連携を図り、福祉サービスやボランティア活動等の情報発信・収集のため連絡会議を開催しました。

また、地域住民を中心とした会議（協議の場）で議論され、合意形成されている活動で地域住民自身に取り組む活動を対象に、小学校区単位の住民組織（概ね校区社会福祉協議会）へ地域福祉活動支援事業補助金を交付し、地域福祉の進展を図りました。

こちらについては、地域活動の担い手作りとして、活動の支援、(2)のNPO、ボランティア活動の支援ということにあてはまりますのでご紹介させていただいております。

再度青色冊子 38ページをご覧ください。基本目標4「適切な支援につなげる体制づくり」に係る事業として、今回ご説明させていただくものは、2項目ございます。

①「和泉市地域福祉総合相談員（CSW）配置促進事業」

②「ふるさと元気寄附事業」の2項目について、ご説明させていただきます。

資料16ページ 下段 事業名「和泉市地域福祉総合相談員（CSW）配置促進事業」をご覧ください。

事業としては、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域住民の

困りごと等を相談できる身近な窓口として、地域福祉総合相談員（コミュニティ・ソーシャル・ワーカーいわゆるCSW）を配置していくものです。
なお、平成29年度の実績として、648件の相談件数がありました。
今後も周知活動を継続していくとともに、個別相談について、関係機関・各種サービスへの連携や、見守り活動を強化し、地域住民の問題解決を図っていきたく、市を含めて考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

こちらは冊子の39ページ、右上に重点取組の1、総合相談ネットワークの充実とともに先程紹介しました基本目標4「適切な支援につなげる体制づくり」、総合的な相談体制の充実にあたりますのでご紹介をさせていただきます。

続きまして、資料18ページ 下段 事業名「ふるさと元気寄附事業」をご覧ください。

こちらは、和泉市を応援しようとする個人等から広く寄附金を募り、これを主たる財源として各種事業を実施することにより、思いやりと活力に満ちた、ふるさとづくりに役立てていこうとするものです。

実績として、平成28年度は 8,645件 3億1,249万1,715円、平成29年度は 25,541件 16億8855万1820円と多くの方にご寄附をしていただくことができました。

件数で約3倍、金額としましては約5倍近くですが、寄附額が伸びた要因としては、記念品及び広報の見直し・充実化を図り、また、ふるさと納税包括業務委託（ポータルサイトへの登録）により、民間活力を導入したことで、大幅な実績の増加に成功しました。

冊子38ページの4、適切な支援に繋げる体制づくりの施策の方向性（3）地域福祉の推進体制の強化の後に具体的な取組としまして、地域福祉の推進がございます。

いただいたご寄附を活用させていただいている一例として「いずみあいさつ運動にかかるのぼりの作成」、「避難行動要支援者支援事業」、「防災ガイドマップ改定経費」等に活用させていただいておりますので、この中でご紹介をさせていただきます。

以上、地域福祉計画内における主な取組進捗状況を抜粋してご報告させていただきました。事務局からの説明は以上です。

石田会長

はい。

ありがとうございます。

事務局

丁寧にご説明いただきました。

38、39ページに記載のある表に基づいて事業が展開されたという報告でした。

何かご質問とかご意見とかおありでしょうか。

特によろしいですか。

それでは社会福祉協議会より二つ目の地域福祉活動計画の進行管理について説明をお願いします。

和泉市社会福祉協議会 地域福祉係 迫田でございます。

本日はよろしくお願いいたします。

私からは、第3次地域福祉活動計画における平成29年度の進捗報告をさせていただきます。

資料は、ピンク色冊子「第3次和泉市地域福祉活動計画」と、本日お配りいたしました資料の中で右上に「資料2-1」とふってございますホッチキス止めにしております資料に基づきまして進めたいと思います。

まず、ピンク色冊子31、32ページをご覧ください。

こちらに地域福祉活動計画の体系図を記載してございます。

本計画では、目標1～4の4つの基本目標と、それに対応する12の施策を設定しております。

それぞれ12の施策について、細かい内容を次の33ページからに規定しております。

本日ご説明させていただきますのは、この計画に記載している12の施策1つ1つを、和泉市社協としていかに進めたかの平成29年度実績報告と、その結果をふまえて、計画の最終年度である平成30年度の目標設定について、ご説明をさせていただきます。

12項目ごとに資料2-1の一覧表に落とし込んでおりますので、以降は、資料2-1の方をご覧くださいながら説明を聞いて頂ければと思います。

まず資料2-1、19ページの表の見方ですが、一番上のタイトルに目標1から4をそれぞれの目標ごとに、左の項目から順に、「施策と事業内容」、平成29年度中の「取組内容（実績）」と、連携を何処と図ったか「連携先の関係部署」、「具体の数値実績」、「評価」をそれぞれ記載しております。

この評価については、和泉市社協としての内部評価になりますが、どの程度まで達成できたのかを、◎○△×で表し、わかりやすい仕様にしております。その上で、「なぜその評価をつけたのかの分析理由」を加えて記載をしております。

そして一番右の欄には、平成30年度の計画内容と数値目標を記載し、第3次計画の最終年度として目指すべき方向性を定めております。

時間の都合上、全てを取り上げることは出来ませんが、各目標より一部抜粋し、説明をさせていただきたいと思っております。

それでは、目標1『一人の困ったを、みんなの良かったにできるまちづくりを目指そう』についてです。

この項目で、特に力を入れて動かしたものが、一番上に記しております、1-①「地域の課題を定期的に話し合える協議の場づくり」でした。

「協議の場」いわゆる、「地域住民や関係機関が集まって、情報交換や地域課題・福祉課題の話し合いができる場」を各校区に作っていくにあたり、積極的に校区へアプローチ致しました。

平成29年度中には新たに7校区で立ち上げが完了しました。

これにより全21校区中、20校区で協議の場が設置出来たこととなります。

残り1校区についても、平成30年度早々に「協議の場」第1回目が先日行われましたので、目標値8校区中、実績としては7校区でしたが、一応達成できたと言うことで「◎」の評価としております。

ただし、すでに協議の場が設置しているところにおいても、平成29年度中に1度も会議が開催できなかつた校区も3校区ありました。

これについては、やや達成できたというところで、「○」やや達成できたという評価をしております。

会議を開催出来なかつた事情については、各校区でそれぞれありますが、市社協として把握はしておりますので、平成30年度については、引き続き3校区と調整致し、再開に向けて支援してまいりたいと思っております。

続きまして、上から3つ目「課題解決に向けた活動支援」の項目をご覧ください。

各校区において、協議の場での話し合いから、具体的な実践活動が様々取り組まれております。

「◎」と評価致しました理由、活動の詳細について、詳しく説明を致します。

「◎」と評価致しました理由は次の通りです。

協議の場での話し合いが積み重なり、円熟してまいりますとその活動や、以前より出ていた課題について地域主体でいろいろ企画立案され、様々な活動が積極的に行われています。

例えば、行政からおりてきた、社協からおりてきた事業をこなすだけでなく、自分たちで話し合っただけで決めた活動をやってみるというこのサイクルこそが、地域福祉推進につながるのだなというふうに私共日々感じております。和泉市社協と致しましても、実践活動補助金を交付し、議事進行のお手伝いや、各関係機関と調整等を行い、活動が円滑に進むようにサポート致しました。

そのことから評価を「◎」とさせていただきます。

今後も住みやすい和泉市・校区を目指し関係機関と住民が一緒になって、活動や取り組みを行っていきたく思います。

続きまして、19ページ下段。

目標2「安全安心に暮らせるようにみんなでつながり支え合おう」の部分では、地域の防災力向上や地域情報の収集、共有、発信について、数値実績とともに評価をしております。

2-1、「地域の福祉防災力の向上」の中にあります「地域ぐるみの防災訓練や研修の実施」をご覧ください。

こちらにつきまして、防災をテーマに検討された3校区において、校区内での災害研修や防災訓練が取り組まれました。

校区社協が主催であるものの、広く一般住民に声をかけ、参加を募った形でございますので、地域住民全体の防災意識向上につながったと考え、目標値も達成したことから評価を「◎」とさせていただきます。

続いて2-2、「災害時に即応できるボランティア支援体制の構築」につきましては、昨年起こりました福岡県・大分県の大雨災害被災地向けに募金活動を行ないました。

身近にできるボランティア活動、被災地支援として178、381円の募金を被災地へ送ることができました。

しかし、この項目で本来目指すべきところである「災害ボランティアの養成」については、募金活動イコール災害ボランティアの養成とは言い難いところもあり、達成は出来なかったと判断し「△、未達成」の評価を致しました。しかし、平成30年度におきましては、災害ボランティアセンターの運営訓練、シミュレーションを行い、校区社協ボランティアやアイ・あいロビーに登録するボランティアとも協力しながら、災害時に対応できる支援体制を整

えていく予定でございます。

平成30年度については、この評価の部分をしっかりあげていきたいと思っております。

20ページをご覧ください

目標3『一人ひとりのチカラを地域で活かそう』について。

ここでは、地域の人材育成を目標としております。

3-1、「福祉教育・市民学習の推進」の項目では福祉教育を実施し、資料に記載のように小学生から高齢者の方まで、福祉について考えてもらうきっかけ、ボランティアに関心をもっといただくきっかけとして、講座や体験学習を積極的に提供しました。

市内10の小学校にて、盲導犬についての講座、視覚障がいをお持ちの方からの講話、講座、また車椅子体験、アイマスク体験等、年間を通じて福祉教育を行っております。

一回きりの単発では無く先生、教員の先生方との打ち合わせを綿密に行いながら総合的な福祉教育を実施しました。

続いて3-2、「ボランティアの育成、新たな住民層の参加拡大」では、どの団体も抱えている課題、次の世代の新たな担い手や、ボランティアをいかに増やすかについて活動を行いました。

アイ・あいロビーと連携し、ボランティア養成講座を開催し、ボランティアの「楽しい部分」「魅力の部分」を積極的に伝え、参加拡大を図った結果、校区社協ボランティアを168名増やすことができました。

引き続き平成30年度につきましても、主要目標を「ボランティアの魅力を伝えよう！」に設定し、さらなるボランティアの増員を目指します。

最終的には1,400名を目指して引き続き取り組んでまいりたいと思っております

目標3につきましても、全ての項目で「◎」の達成できたという評価にしております。

最後に、その下の目標4『SOSをキャッチしてつなぐしくみを充実させよう』の部分です。

目標4-2、「ニーズ発見のしくみづくり」について、こちらは、現在2校区で見守りネットワークが定期的開催されております。

地域で見過ごされているようなニーズに気づくことで、それを必要なところに繋ぐ仕組みを、地域住民の方と協議致しました。

その窓口として市社協のほか、地域包括支援センターやいきいきネット相談支援センターと関係づくりを行い、地域住民の方が気づいた部分をすぐに関係機関へつなげるための取り組みを行いました。

続きまして一番下の4-3、「福祉情報の提供体制の充実」という部分です。こちらにつきましては、いきいきサロンや子育てサロンの代表さんへ、和泉市が行っている出前講座、関係各課が提供している様々な派遣の講座等を情報提供することによって、それぞれの専門職の特性を活かした地域とのつながりづくりを進めました。

社会福祉協議会が窓口になって調整する部分もあれば、いきいきサロンや子育てサロンの代表が直接調整を行う場合もございますけども、概ね、今、和泉市内で行われている、いきいきサロン、全172箇所ございますが、こちらの活動も活発に行われることによって地域福祉の推進が図られているものというふうに考えております。

目標4につきましても、全ての項目で評価を「◎」とさせていただきます。

以上、時間の都合上、割愛させていただいた部分もございますが、このような形で取り組み1つ1つに、和泉市社協として評価をまとめ、また、平成30年度目標を出来る限り数値化して、数値目標を設定しております。

平成30年度は、第3次地域福祉活動計画の最終実施年度ということもあり、また、第4次地域福祉活動計画の策定年度でもあります。

振り返りを行い、未達成の部分は引き続き達成を目指す、また、「◎」の達成出来たと評価している部分につきましても、継続できる、継続するべきところを第4次の計画に反映させ盛り込んでいきたいと考えております。

本日の会議ではこの評価シートを元に、委員の皆様へ、点検、評価、改善のご意見をいただければと思っております。

私からの説明は以上となります。

引き続き先程申し上げました、「協議の場から創出された実践活動の具体的な詳細」について、地域福祉係 阪本よりご説明させていただきます。よろしく申し上げます。

事務局

和泉市社会福祉協議会、阪本でございます。

よろしく願い致します。

資料21ページ、右上に資料2-2と番号の振ってあるA3見開き資料をご覧くださいませでしょうか。

私からは、先程もご報告しました和泉市社協が策定しました第3次和泉市地域福祉活動計画における、主要取り組みである「協議の場」において、平成29年度に各校区でどのようなことが協議されたか。

また、各校区で協議を積み重ねた結果、どのような課題解決に向けた取り組みが実施されたのかを、時間の都合もごさいますので、全ては紹介できませんが報告させていただきます。

まず、各校区で協議された内容についてです。

校区別に見ても協議されている内容として多いのが、認知症の方や、障がいのある方等、地域で気になる人をどのように見守っていくかについてです。各校区の協議の場に参画されている、各種団体が固定されている訳ではありませんが、協議の場には校区社協の方はもちろん、町会・自治会、民生委員・児童委員等の各種団体に参画いただいております、地域の見守り活動で実際にご協力いただいている方が、例えば認知症により自宅が分からなくなって迷われている方に声かけをしてくださる等、日常的にごさいまして、地域課題として感じられていることが多い結果と考えております。

次に多いのが、災害時の助けあいについてです。

和泉市の中でも、山手にある校区で話し合われているのは、平成29年度ですと7月の大雨により土砂崩れや、川の氾濫によると被害が出たり、また、直接的な被害がなくても川が氾濫しそうになって避難所が開設され、実際に避難した等、身の危険を感じたり身近に危険を感じる人が多いからと考えています。

一方で、海手にある校区でも災害時の助けあいについて、話しあわれており、具体的には地震による被害や、地震を原因とした津波被害等を危惧されているからです。

一部校区では、直接的に地震による被害を受けなくても、近隣市が被害にあった場合、近隣市の住民が自校区に避難してくることを想定し協議されています。

次に、災害時の助けあいと共に多いのが、校区社協活動の周知についてです。市社協としましては、今以上に社協というものを周知していかなくてはいけないのですが、日頃、校区社協として活動いただいている方も、まだまだ社協を知らない人が居るということを感じておられます。

ボランティア活動をされている方や、社協の各種事業にかかわっておられる方は、社協や社協がおこなっている活動をご理解いただいておりますが、例

えば現役で働いておられる世代等は、なかなか地域の活動に参加できない状況があり、社協や社協活動を知る機会が無いようです。

次に多いのが、地域住民同士の交流についてです。

地域住民と一言で言いましても、どの年齢層や、対象者の住民同士のつながりについて、課題に感じられているかは少し違うようですが、昔に比べ住民同士のつながりが薄くなっている、住民同士の関係の希薄化が進んでいると感じられているようです。

また、そもそも住民同士が交流できる場所自体がない、今現在の校区の状況にあった交流の場所がないと感じられている部分も多いようです。

他にもさまざまな事が協議の場で話し合われています。

協議の場が立ち上がって間もない校区では、協議の場を運営していくための体制作りや、校区としての年間目標を設定すること等も協議されております。

また、各種団体が集まる場ですので、各団体からの報告や情報共有は、記載が無い校区につきましても、ほぼ全ての校区で行われております。

各団体から例えば、町会として最近こんな事に取り組んでいるという報告や、最近こんな事に困っている等、具体的な事が話し合われています。

特に、平成29年度に協議の場が立ち上がった校区におきましては、各種団体の活動報告や情報共有を主にして、協議の場が進められております。

次に、各校区の協議の場で地域課題についての協議を積み重ねた結果、平成29年度に課題解決に向けた取り組みが実施された内容について、ご説明いたします。

校区別に見て、一番多い取り組みとしましては、校区社協をPRする為の広報紙の作成及び配布です。

校区社協の存在や活動が、まだまだ校区内の住民に周知されていないという課題に対する取り組みですが、広報紙を全戸配布することにより、各校区社協で行なっている活動の周知がされました。

これにより、今まで校区社協と接点がなかった住民から、いきいきサロンや子育てサロンへ参加したい、サロンを支援するボランティアに協力したという結果につながっております。

また、広報紙を使い、今まで自治会未加入であったマンションへアプローチされた校区もございます。

他にも、校区社協で実施されているイベント時等に、校区社協をPRするための広報紙が折り込まれたポケットティッシュを配布する等、新しい手法に取り組まれた校区もございます。

その他の取り組みとしましては、地域住民同士が気軽に集える場がないという地域課題に対して、校区全体の住民が参加可能なカフェ形式のサロンを立ち上げる等の取り組みも行われております。

最後に、平成29年度に光明台南校区で取り組みとして始まった、地域住民の困りごとを地域住民で助け合う仕組み「お助け隊」の報告をさせていただきます。

光明台南校区では、以前から介護保険等では対応できない地域住民のちょっとした困りごとが多いことが把握されてきました。

そこで、それらを解決するために、「お助け隊」が立ち上げられました。立ち上がったのが、平成29年度末ですので、まだ依頼は少ないようですが、ボランティア活動の延長線上として、可能な範囲で地域住民のちょっとした困りごと等に対応していきたいとのことです。

取り組みが多い校区につきましては、平成26年度からの第3次地域福祉計画において早くから協議の場が立ち上っており、校区の地域課題について、協議を積み重ねてこられた結果だと考えております。

課題解決に向けた取り組みに至るまでは、取り組みの内容により、1年ほど準備期間等含めて時間が掛かっているものもございます。

また、取り組みが多い校区と比較して取り組みが少ない校区や、取り組みが無い校区もありますが、広い和泉市でございますので各校区で協議されている課題も違えば、一定の課題に集中的に取り組んでおられる校区もある為だと考えております。

協議内容の部分でもふれましたが、直近で協議の場が立ち上がった校区につきましては、課題解決に向けた取り組みには至っておりませんが、協議を積み重ねている途中でございますので、課題解決に向けた取り組みに向けて同じ地域課題であれば、他校区の先行した取り組み事例なども情報提供しながら支援を行っていききたいと考えております

以上、時間の都合上、割愛させていただいた部分もございましたが、和泉市社会福祉協議会から第3次和泉市地域福祉活動計画における事業計画進行

石田会長	<p>管理及び評価について、また、協議の場 平成29年度各校区協議内容及び取り組みについて、報告は以上でございます。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。 協議の場は社協の実感として、各校区新しい流れの中で一生懸命協議をしているという感じですか。</p>
石田会長	<p>運営について、住民同士の関係性等、なかなかスムーズに行かない部分があるのが実際でございます。</p>
石田会長	<p>委員の皆さん、ご質問等ありましたら挙手の上仰っていただければと思いますがいかがでしょうか。 何かありませんか。</p>
石田会長	<p>先程、特色的なことをご報告いただきましたが、市の計画も上手く進んでいるそういう感じですか。</p>
事務局	<p>事務局の井上でございます。 市としましては、いろいろな担当課がある中で、こういった事業を地域福祉関連事業ということで位置づけてご紹介をさせていただいたところでございますので、評価はそれぞれ担当課がされておるところです。 ただ、実感としては、まだまだ市内に地域福祉というものの理解を深めていかなければならないとは感じているところでございます。</p>
石田会長	<p>説明の最後にあった、ふるさと納税16億、驚きましたけど、これがどれだけ地域福祉のために使われているのかについてはいかがですか。</p>
事務局	<p>防災マップの改訂経費に充てられている金額のうち864万7千円、今回ご紹介しておりませんが、高齢介護室で所管されている敬老祝品に1,300万円、街かどデイハウスに1,000万円と地域福祉の関連事業にも充てられております。</p>
石田会長	<p>はい、ありがとうございます。 市としてはとても嬉しいふるさと納税の額ですよ。 どのような仕掛けをしたら1年間で5倍もの金額が入ってくるのか、各地が求めている情報ですごいことだと思います</p>

一井委員

はい、他の皆さんいかがでしょうか。

今、社協から協議の場について、説明がありました。

協議の場づくりについて、大変苦勞されているのはよく解ります。

各校区にいろいろ特徴があるため、なかなかまとまらない。

協議の場においてもP T A、自治会長、ボランティア、民生委員等いろいろな方が参加されますので、提案、議事、進行についても大変難しいと思っています。

少しお聞きしたいのは、いきいきサロン等についてです。

僕もいろいろな校区のサロンに行かせていただきました。

モーニングサービスでコーヒー、パン、卵を安価で提供されているところに数箇所行ってみました。

大変驚いたのは50人から60人くらいの参加者がおり、お年寄りも参加されています。

その中で仲良く、楽しい朝食をされていて、このようなサロンをやっているのが173箇所あると報告がありましたが、173箇所のサロンにいったい何人の方がきているのでしょうか。

また、社協の説明では各校区でいろいろなテーマや課題が議論されたと資料の表にありました。

この中で、いきいきサロンの運営が5箇所、こども食堂について取り上げているのが1箇所、子育てサロンについて取り上げているのが1箇所となっています。

17校区の表になっていますが共通する項目、共通しない項目それぞれあると思います。

共通する項目については、みんな心配している部分ですからもっと力を入れる必要があると考えます。

もう一点、協議の場やサロンに参加しますと、ボランティアの方、民生委員、いろいろな人が協力して頑張っておられます。

しかし、それぞれ立場が違うので物の見方、考え方が若干違っているところがあります。

その辺りをもう少し提案できればと考えています。

また、民生委員は個人情報の問題で困っています。

第3次地域福祉計画に、情報の共有について記載されていますが、どのように進めていけばいいのか迷っているところです。

先日、サロンに行ったところ、サロンに参加する予定だったお婆さんが来て

石田会長	<p>いないので、いつも一緒に参加されている方が心配して、私の家はお婆さんの家の近所だから一度訪ねてみようか仰っていました。</p> <p>このように、住民同士が助けあっていますし、私達も何かいい方法がないかと考えています。</p> <p>あと、何処の地域のサロンにも参加者名簿がありません。</p> <p>作っているところをほぼ見たことがありません。</p> <p>その辺りをどのようにすべきか教えていただきたいと思います。</p> <p>共通の課題は、先程認知症の事や災害時等でそれぞれ整理していただきましたが、凄い数のサロンが運営されていて少し驚きました。</p> <p>現在何人ぐらい参加されているのでしょうか。</p> <p>その辺はどうですか。</p>
事務局	<p>和泉市社会福祉協議会 阪本でございます。</p> <p>実際に、いきいきサロンに何名くらいの方が参加しているかにつきましては、資料の19ページをご覧くださいませでしょうか。</p> <p>資料の19ページの上段、目標1『一人の困ったを、みんなの良かったにできるまちづくりを目指そう』の部分、こちらの平成30年度の少し左側、上から4段目になります。</p> <p>平成29年度にはというところ、いきいきサロンが152箇所、子育てサロン19箇所で開催されております。</p> <p>のべ55, 288名の参加を得ました。</p>
石田会長	<p>いきいきサロンによって参加者数はもちろん違いますが、平均すると月1回約20名の参加があります。</p> <p>委員がおっしゃったように、校区全体のカフェサロンですと、1回で50名、60名、70名という方の参加もありますし、こじんまりとしているという表現が適しているかどうか解らないですけども10人、15人単位くらいで開催されているサロンもございます。</p> <p>152箇所ではなく175箇所ではないですか。</p>
事務局	<p>171箇所の間違いでございます。</p>
石田会長	<p>いきいきサロンが152箇所、子育てサロンが19箇所なので171箇所ですね。</p> <p>ここに記載されている55,000人は、のべですから1ヶ月に1回やった</p>

事務局	<p>ら12で割る必要がありますし、一人の人が12回参加されていることもありますから、実数で言ったらこの1/10くらい、5,000人くらい方が参加しているということですね。凄い数ですね。</p> <p>他市町村の社協ですと各校区で運営されているサロンは、一つずつの所が多いと思います。</p> <p>和泉市社協では、今現在各校区によってばらつきはありますが1自治会、町会に対して一つくらいのサロンが計算上運営されていることになります。</p> <p>避難行動については、個人情報で仰られたと思いますが、実際に各校区で協議の場に参加させていただいているところを感じるの、各校区で福祉総務課が実施している避難行動要支援者の制度の名簿についてです。</p> <p>名簿の保管方法の話がされているところもあれば、災害時に使うだけでなく、日頃の見守り等の支援体制づくりにも活用しているところ、また、各団体参画いただいている協議の場ですので実際にどのように扱うか話し合われている校区もございます。</p>
石田会長	<p>先程サロンに来ている人が誰か解らないし、名簿も無いということでしたが、委員としてはどのようにしたらよいとお考えですか。</p>
一井委員	<p>サロンを主体的に運営している主催者側の判断もあります。</p> <p>町会が主催しているところ、ボランティアがやっているところ、民生委員がやっているところ、それぞれで形が少し違います。</p> <p>社協からサロンに対して補助金が出ており、運営費には足りないものの、たいへん励みになっているという話もあります。</p> <p>先程も申し上げましたが、やっていることは同じでもそれぞれの立場によって見方や立ち位置が違うこともありますので、名簿の必要性も含めて共通の認識にしたらよいのではないかと思います。</p> <p>数字で示すとかでは無く、毎日のふれあいの中でいろいろ話が出てくるのであって、お互いみんなで助けあう、親身になってお互いの健康の事とか、最近の暮らしの事とかいろいろ話しあっているの、大きな取り組みだと思っています。</p>
石田会長	<p>参加する方が固定化し、新たに参加する方が来難い状況になる、また、そうならないためにどのようにすればよいか。</p> <p>そのような時のために名簿の有無が関係してくると思います。</p>

小川委員	<p>直接関係は有りませんが、保健所としてはどのようにお考えですか。名簿は必要でしょうか。</p> <p>支援の名簿をどのように作成していくかということでしょうか。</p>
石田会長	<p>民生委員の立場で考えると支援の名簿があったほうが支援しやすい。しかし、ボランティアでやっている場合は普通の喫茶店と同じですから、お客さんに名前と住所を書いてもらうことはありません。立場の違いによっていろいろありますが、統一するほうがいいのか悪いのかというお話だったと思います。</p>
小川委員	<p>民生委員さんは日頃から地域のことを十分見ているので、名簿がなくてもその家に住んでいる人をよく解っている方がやっていると思っております。また、個人情報については、必要であれば管理をしっかりといただき作られてはいかがでしょうか。必ず書いてもらうのではなく、自主的に個人情報を預けてもいいと思えるのであれば書いていただき、それをきっちり管理すればよいと思いますがいかがでしょうか。</p>
一井委員	<p>誰が管理するんですか。</p>
小川委員	<p>誰が管理するかですよね。市のほうで要援護者のリストを名簿として作って管理されています。それが民生委員に知らされているとのことですから、改めて名簿を作る必要は無いと思います。それともリストに載っていない人の名簿が必要だということでしょうか。</p>
一井委員	<p>いるんかどうかということ言ってるんです。</p>
小川委員	<p>リストに載っていない人、自主的に申告していない人については、名簿を作れないと考えます。</p>
石田会長	<p>災害時やそれ以外の時でも、自主的に助けの欲しい人が同意した台帳は、預かった人たちが管理をしっかりとすることが大事ですが、全ての住民の情報を行政や民生委員が把握することは、特に必要ないのではないかと考えています。</p>

事務局	<p>市では災害時の要支援者名簿を民生委員、町内会等に渡していると思いますが、どの辺りまで渡していますか。</p> <p>避難行動要支援者の名簿は、大きく分けて二つございます。一つはその方の同意をいただいた同意台帳。もう一つは、大災害が発生したとき同意・不同意に関係無く市が判断した場合に配布する災害用の台帳です。本人の同意をいただいている台帳におきましては、民生委員、町会・自治会、校区社協や、警察・消防団の方たちにご協力をいただき、毎年新規を追加しながら台帳更新の説明会をさせていただく予定になっています。災害時用につきましては、災害時の安否確認、避難誘導時に活用していただけるように配布しております。先程、一井委員がおっしゃった部分に少し重複しますが、同意台帳としての名簿は確かにございます。しかし、その名簿よりもまず顔の見える関係づくりが必要であり、名簿の名前だけではどのような方か解りません。市の考え方としましては、台帳を活用していただくためにも民生委員、町会・自治会、校区社協、ボランティアを含めた団体の方々に日頃から地域の中で顔の見える環境や体制作りを台帳更新時の説明会でお願いしているところでございます。</p>
石田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>先程のサロンのこともそうですが、小学校区1つには大勢の方が居ますから当然全員の顔は見きれません。エリアの中で100を超える程のサロンを作っていれば、色々な関係性が住民同士の間に出てきますからとても有効な手段ですよ。それと、支援するかしないか、災害時にどうするかというのは、直接つながっているところもあれば、そうでないところもありますよね。</p>
一井委員	<p>サロンが171箇所あり5万人が交流しているので、名簿を作ったほうがいいのか心配になり聞きました。</p> <p>社協より、サロン1回につき2,000円の補助を出していただいています。人気が出てきて参加者も多くなってきましたが、現状の補助金だけでは運営資金が不足している気がします。</p>
石田会長	<p>名簿をしっかりと作り、参加者がこれだけ大勢来ているから、もう少し補助</p>

一井委員	<p>金を増やしてはどうかということですね。</p>
石田会長	<p>そこまでは言いませんがそのような趣旨もあります。</p>
長井委員	<p>先程、実費についておっしゃっておりました。 それぞれが負担することが大事なのは解ります。 また、個人情報の取り扱いについては、ここで結論付けるのではなく、今後 もいろいろな方に広めて閉鎖的にならない、皆がいろいろなことを知ってく れる街になれば住みやすくなると考えますが、別の考え方をする人も居ます ので、難しいところだと思います。</p>
石田会長	<p>私はオレンジカフェのメンバーに入れてもらい、月に一回ですができるだけ 参加するようにしています。 一井委員もおっしゃっていましたが、個人情報についてです。 そこでは、名前だけ記載してある名簿を作っています。 参加予定者の確認や参加申し込みの確認は出来ますが、名簿に電話番号は載 っていません。 このため欠席された方に声を掛けることができません。 個人的にある方から電話番号をお聞きして、欠席したときに様子を確認する 電話を掛けましょうかと言ったところ、別の方から個人で聞いてやるならと もかく、いろいろ考慮するとそこまで出来ないと言われ、話がそこで終わっ てしまいます。 現状はこんな感じです。</p>
石田会長	<p>オレンジカフェ、かわいい名前ですね。 先程、委員がおっしゃっていたように、作った名簿を誰が管理するのか。 欠席した人にその都度安否確認をするのは良いが、それが義務化したら負担 になる等、色々な状況があると思いますから、今の段階では利用者同士がお 互いに顔と名前が一致して気楽に街の中でも言葉が交わせる、そのようなま ちづくりをするのが目的で直接支援や災害時に活用というようなことでは 無い感じですよ。 今後、どのように展開するのかその辺りを意識しながら来年、再来年お伺い できればと思います。 そのような意味で言いますとコミュニティ・ソーシャル・ワーカーはあまり 認知度が無い、広まっていないとのことでした。 地域福祉の核になる部分だと思いますが、このあたりはいかがでしょうか。</p>

事務局	<p>私達も、周知活動におきましては、顔の見える関係づくりを基本に進めています。</p> <p>地域の様々な活動の場等に直接うかがい、住民の方に顔を知ってもらい、直接ご相談をいただけることで個人情報の壁も解決できると考えています。</p>
石田会長	<p>はい。</p> <p>できてからまだ間もないですし、各市町村それぞれで所属や活動の場も違いますから和泉市としてコミュニティ・ソーシャル・ワーカーの位置づけをしっかりとしていただけたらと思います。</p> <p>他の方いかがでしょうか。</p>
中委員	<p>個人情報の問題に関しては、昔と違い隣近所が仲良くしていて事情全部をわかっている時代とずいぶん変わってしまいました。</p> <p>電話を掛けてもなかなか出なかったり、携帯しか持っておられなかったり、オレオレ詐欺予防のテープが流れてなかなか繋がらない、また、いろいろな事件があったため、個人情報には凄く敏感になっています。</p> <p>市が毎年更新する避難行動要支援者台帳の個人情報についても、日々情報が変わってきますので、更新して対象者がいるのか、どのような状態なのか、入院されているのか、災害や避難の必要な状況に対応できるように管理していただきたいと思います。</p> <p>近所の人がいつまでも留守にしている、どうしたのだろうかと思っていたら引っ越ししていることもありました。</p> <p>また、個人情報の管理については、大事なことだと思います。</p> <p>また取り扱いについても、台帳を預かって金庫に保管している担当者や町会長が緊張すると聞いたことがあります。</p> <p>今後の課題になりますが、皆の意見を聞き安心して預けることができる台帳を作る必要があると思います。</p> <p>市民として期待しています。</p>
石田会長	<p>関係性ができたら安心して名簿も委ねられるということですね。</p>
中委員	<p>個人的なことをわかっていただく安心と、その真逆があるのは事実ですね。</p> <p>もう一つ会長にもご相談したいことなので聞いていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>私は、和泉市の男女共同参画で社会作り養成講座を卒業しまして、その仲間達と一緒に市の登録団体を立ち上げています。</p>

そこで何をしているかといいますと、障がい者支援を含めた福祉農園や、親子のふれあいを盛んにするため、親子で参加する学校ではできないような化学実験教室、学校で行う総合学習として地域の農家の方に協力をいただき、田植えや稲刈りを体験する米づくりプロジェクトを行いました。

また、土作りから途中草むしり等の過程を経て収穫祭を行い、最後は藁で何か工作ができないか、昔だったらどのように利用していたか、3世代交流で学びの体験をする講座を開いています。

3世代で一緒に暮らしていない子どもたちにも、他所のおじいさん、おばあさんといろいろなふれあいをして、いろいろな事を教えてもらう。

孫の世代と関わりあいを持ち、元気になり介護されない年寄りを作るのを目的としています。

そこで、実現できるか解りませんが、会長にお願いしたいのは、先程も社協の方がおっしゃっていましたが、ボランティアに参加してくださる方が少ない、人数集めが凄く大変だとのお話がありました。

少し前になりますが、今年の3月頃、新聞に載っていた記事に、泉大津市と羽衣国際大学、泉大津市社会福祉協議会と包括の連携協定を行ったというものです。

内容は、60歳以上の泉大津市民が羽衣国際大学の社会人講座を受講する際に、受講費用の一部を市社協が助成し、助成を受けた市民は市社協へのボランティア登録や、市社協が運営する高齢者大学の運営協力などを行うことで、シニア世代の学びを支援するとともに社会参加を促すことで地域活性化をめざすとのことでした。

人生100年時代に突入した現代においては、地域でのシニア世代の生きがい作りが凄く大事であると思います

オレンジカフェも凄くいいことですし、そういった場にこれからお年寄りになる世代の人達がどんどん参加して、そこから離れず、ボランティアとして活動していける、ボランティア登録して活躍できるような連携が出来ないものかと考えていますがいかがでしょうか。

石田会長

今、羽衣国際大学と泉大津社協、泉大津市と一緒にやっていることを、桃山学院大学と和泉市社協、和泉市でもできたらいいなという思いを持っています。

そのステップとして、和泉市と桃山学院大学の間で市職員に大学まで来てもらい、一緒に授業を受けるというプログラムが今度始まります。

その中で、大学と和泉市の間、より密接な関係性ができたらいいなと思っています。

中委員	受講して前に一步踏み出した方がそのまま終わらないで、つながりを持ちながら、いきいき生活されるという方向性に導いていただければありがたいと思います。
石田会長	そうですね。 市民大学や大学院等、いろいろな形で私達も協力させていただいておりますので、おっしゃっていた形になればいいと思います。
中委員	和泉市でもよろしくお願ひ致します。
石田会長	まだまだご意見あると思いますが、もう一つ課題が残っております。 第3次和泉市地域福祉計画が今年で終わり、次の第4次和泉市地域福祉計画について、事務局から説明していただきたいと思います。
事務局	事務局の井上でございます。 私からは、議題③第4次和泉市地域福祉計画及び和泉市地域福祉活動計画の策定について、ご説明させていただきます。 資料22ページをご覧ください。 冒頭の開会挨拶でも触れましたが、今年度は、第3次和泉市地域福祉計画及び和泉市地域福祉活動計画の最終年度であるとともに、第4次和泉市地域福祉計画及び和泉市地域福祉活動計画の策定年度でもあります。 この和泉市地域福祉推進協議会と和泉市福祉でまちづくり委員会におきましても、次期計画の策定を本年度進めてまいりたいと思います。 また、計画の策定にあたり、本協議会と和泉市福祉でまちづくり委員会の開催を例年の倍、和泉市地域福祉推進協議会については本日を含めて2回、和泉市福祉でまちづくり委員会につきましては2回のところ4回、計6回の開催を予定しておりますので、委員の皆様におかれましては、ご協力賜りますようお願いいたします。 それでは、平成29年12月12日に厚生労働省から示されました社会福祉法改正による記載事項の追加等を踏まえて、改定された地域福祉計画の策定ガイドラインから、現計画であります第3次和泉市地域福祉計画と今年度策定を行います第4次和泉市地域福祉計画との変更点について、ご説明させていただきます。 資料22ページをご覧ください。

大きな変更点が2つございます。

1つ目の主な変更点としまして、市町村地域福祉計画に盛り込むべき事項が示されたことです。

計画に盛り込むべき事項として、①地域における高齢者の福祉、障がい者の福祉、児童の福祉、その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項の例として資料23ページ(1)の①の(ア)から資料24ページの(タ)まで、計16項目が示され、これまで地域福祉計画に盛り込まれていなかった分野の事項も含まれています。

国からの通知におきましては、地域の課題や資源の状況等に応じて、各分野が連携して事業を行うことにより、それぞれの事業の効果、効率性や対象者の生活の質を一層高めることができるよう創意工夫ある取組が期待されています。

2つ目の主な変更点としては、包括的な支援体制の整備に関する事項を計画に盛り込むよう示されたことです。

国が現在推進しております「地域共生社会の実現に向けて」に関する中で、①「住民に身近な圏域」において、地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境の整備に関する事項、②「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備に関する事項、③多機関の協働による包括的な相談支援体制の構築に関する事項、以上3つの事項について、計画に盛り込むよう示されています。

これら3つの事項についても、地域の実情に応じて創意工夫を持って取組を進めるよう示されており、現段階では和泉市が具体的にどのように進めていくのかお示しできるものはありませんが、この地域福祉推進協議会や福祉でまちづくり委員会におきまして、委員の皆様からご意見ご協力を頂きながら和泉市の独自性を出しつつ、具体的にどのように実施していくのか検討してまいりたいと思います。

次に資料26ページをご覧ください。

こちらは、現段階での第4次和泉市地域福祉計画、及び和泉市地域福祉活動計画の大まかな計画策定にかかるスケジュール案になっております。

少しご説明させていただきますと、本日この地域福祉推進協議会がございまして、その後、来月中に業者選定を行い、7月頃から全体ワークショップの実施と、校區別ワークショップ2回の実施を考えております。

その他にも市民アンケートの実施や、各福祉関係者のヒアリング等を考えております。

地域福祉推進協議会と福祉でまちづくり委員会がどのように計画策定に関

	<p>わっていくかつきましては、福祉でまちづくり委員会において、実際に計画の内容等ある程度議論して例を示させていただくという形になりました。</p> <p>来年の2月に再度この和泉市地域福祉推進協議会を開催するときには、計画の最終案をお示しさせていただき、委員の皆様にご了承いただけるような流れで考えております。</p> <p>これまでも、地域福祉推進協議会におきまして、委員の皆様には多大な御支援御協力をいただいておりますが、今年度については、より一層重要な年度でございますので、引き続きご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。</p>
石田会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>では皆様方、ご意見ありましたら挙手の上、お願い致します。</p> <p>厚生労働省のガイドラインは、地域福祉計画にこれまでなかった分野の事項も計画に盛り込むようにということです。</p> <p>しかし先ほど事務局の説明でもありましたが、実際に市が関わっていない事項も計画書に盛り込まれるような形になってしまうので、主導設定を多く並べてもあまり意味が無いのでは、という姿勢で行くのか。</p> <p>または、実際に力を入れて取り組みたい事項を主体に盛り込んでいく計画にするのか。</p> <p>あるいは「包括的に」という言葉がありましたが、庁内でやっている地域づくりに関わりそうな事を全部羅列していくような計画にするのか。</p> <p>今ここで事務局に言っても仕様の無い事ですが、そのあたりをもう少し明確にして頂いた方が良いかと思えます。</p> <p>この厚生労働省の計画は、多くの項目は並べたけれども、あまり意味が無いのでは、という考え方もあるかと。</p>
事務局	<p>事務局の井上でございます。</p> <p>そうですね。</p> <p>説明としましては、国が示したものは例でございますが、こういう事項を考えて下さいという事ではあります。必ずこの16項目を入れなければならない訳ではない様です。</p>
石田会長	<p>項目に関係のありそうな、庁内でやっている事の全てを並べる計画にするのが良いのか、あるいはここで言うならば、その包括的な相談体制を作るとい</p>

	<p>うことを主体に絞った計画にしたいのか。</p> <p>そのようなことを皆様からは是非ご意見いただきたいですし、具体的には福祉でまちづくり委員会の方がより現場に近い人がおり、色々な事を計画されているので、そこに委ねるのも良いかと思えます。</p> <p>それにあたり、何かご意見や是非計画に含めてほしい事を伝えておいて頂ければ、という所なのですが、いかがでしょうか。</p> <p>医師会としてはどうですか。</p> <p>やはり医療と福祉は本当に密接なところにありますので、特に医療で普段から患者さんを診ておられていかがですか。</p> <p>医師会としては地域包括支援センターですね。</p> <p>4区画あるという、そこをやはりメインに考えております。</p> <p>その内の1つが認知症の担当であり、そこに集約して意見を上げてもらったという形ですので、やはり医師の立場としては、地域包括支援センターを充実して頂きたいと考えております。</p>
奥村委員	
石田会長	はい、ありがとうございます。
奥村委員	<p>それともう1つ、厚生労働省の指導で「介護医療コーディネーター」というのを去年の5月から設置しています。</p> <p>医師会は和泉市立総合医療センターに職員を一人置いていますので、そことの連携をしっかりとっていただくことにより、医学的に診療が必要であるとか、在宅に行ってもらおうといった振り分けは出来ると思います。</p>
石田会長	<p>高齢者に関わるところで言えば、地域包括支援センターがとても大きな役割を果たしていると思いますが、いま障がい者の人にとって地域包括支援センターは、あまり直接は関係ないですね。</p> <p>高齢者の分と分けて考えられるのか、それともいずれは障がい者の問題も、地域包括支援センターに包含していかなければならないのか、長井委員、障がい者の立場としてはどうでしょうか。</p>
長井委員	私自身ももう、それなりに高齢者なのですがね。
石田会長	<p>間違いなく。</p> <p>私も一緒ですから。</p>

長井委員	<p>まず、相談を受けたら高齢介護室のほうに、障がいを持っている人は障がい福祉の方へ行ってもらう様にしています。</p> <p>私は今相談員をしながら、どちらに行ったら良いのか、悩むケースが多々あるのですが、私自身が悩んだところでどうしようもありません。</p> <p>そういう場合は、どこが悪いのかなどは聞かずに、一緒に障がい福祉の方へ行って相談に乗ってもらい、それからどうするべきかを判断しています。</p> <p>やはりお年寄りには病院に行くにあたって、自分で勝手に病名を作ってしまうこともありますので。</p> <p>そして窓口へ行っても要点がうまく伝わらず、帰ってきて「馬鹿にされて話にならない」とのことで、その辺の整理も大変です。</p>
石田会長	<p>そのように、障がいが高齢か迷わなくても、どちらへ行っても両方の立場で相談を受けてくれるような仕組みの様なものが要る、という事ですね。</p>
長井委員	<p>自身で勝手に病名を作らない様に、医療センターのほうでも、初診で来られた場合に受診すべき科を教えてくれるような、まず相談に乗ってくれる窓口を作っていただきたいと。</p> <p>ここへ行きなさい、内科ですよ、外科ですよといった指針を与えてくれるような窓口です。</p> <p>そして「循環器科」など、あまり難しい漢字で伝えるのではなく、右に曲がって、左へ曲がってというように優しい誘導をしてあげてください。</p>
奥村委員	<p>まだ周知されていないと思いますが、総合内科というところが一応その窓口になり、週2回診療しています。</p> <p>そこに行っていたら、診療科の振り分けとといいますか、この方はこちらにという形にできるのですが。</p> <p>総合内科の必要性は何年か前から考えられてきて、今は各医療機関で出来つつあります。</p>
石田会長	<p>大きな病院では、相談に乗ってくれるとといいますか、行けばとりあえず話を聞いて下さる人がいるのが当たり前になってきましたね。</p>
奥村委員	<p>実際やはり、それが一番大事だと思います。</p>
石田会長	<p>医療の問題は、こういう病院というのが当然あるわけですがけれども、それ以外の様々な生活の事について、地域の中でもやはり相談できる体制がとても</p>

長井委員	<p>大事です。 具体的に市では、多くの費用をかけて取り組みたいと考えている事などありますか。 行政は当然縦になっていますし、特に「地域包括支援センター」のように、「センター」ができたらしかな見えなくなってしまうという事もありますから。 その辺この資料によると、来年に向けて是非包括的に、トータルに見れるような計画を考えていく必要があるということですね。</p> <p>もう1つ。 最近、市役所に度々行くのであれば一度聞いて欲しいとの事で、とても怒っておられた方がいました。 いつの間にコミュニティバスの料金が100円から180円になったのか、ということでした。 その方が新聞を見たら、堺市では高齢者と障がい者はどこへ行くにも100円で、その差額を市民が持ってくれるらしく、和泉市でもそのようにしてくれないだろうか。</p>
石田会長	<p>私は大阪市民ですけども、50円です。 他にはどうですか。 時間的には終了が近づいていますが、よろしいでしょうか。 では本当に短い時間でしたが、たくさんのご説明と、何をしなければならぬかということも詳しくお話いただきました。 ではもう1度、2月にこの会議を開くというインフォメーションが今ありましたが、来年の新しい計画を、「福祉でまちづくり委員会」のほうで具体的に考えていただけるということですね。 今の相談の事なら、地域包括支援センターの方なども当然出てきているわけですね。 その方は誰かお分かりでしょうか。</p>
事務局	<p>福祉でまちづくり委員会に関しましては、その委員様のほかに各担当課の部署の方が来られます。 地域包括支援センターの担当課も来ますので、意見を吸い上げてもらって、その上で一緒に考える事も出来るのではと思われま。</p>
石田会長	<p>私の希望としては、総合的に見えるかどうか解らない小さな字で並べていた</p>

事務局	<p>だくよりも、これをやります、ということをしっかり伝わりやすく書いてもらった方が、和泉市は福祉が進んでいるという宣伝をするにも凄く良いのでは、と思います。</p> <p>もちろん行政のそれぞれの役所の担当の人は、どんな小さい事もきっちりされると思いますが、計画ですから、市民がこれなら自分も協力しようかという気になるためには、少し解りやすい計画を作っていたら大変嬉しく思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>では本当に長い時間、皆様ありがとうございました。</p> <p>私の進行はここまでとさせていただきます、後続きは事務局の方にお返ししたいと思います。</p> <p>お願いします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。</p> <p>また、本日貸出の青色とピンクの冊子は、事務局が後ほど回収いたしますので、机に置いたままでお願いいたします。</p> <p>次回は、平成31年2月頃の開催を考えております。</p> <p>日にちが決定次第、ご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上を持ちまして、平成30年度第1回「和泉市地域福祉推進協議会」を閉会いたします。ありがとうございました。</p>
-----	--